

多摩丘陵に残る義経史話について

義経関係略年表

麻生観光協会 松本良樹

西暦	和暦	年齢	義経事項	関連事項
1159	平治元	1	義経誕生	12月 平治の乱
1160	永暦元	2	1月 父義朝 逝去(38歳) 2月 母常盤 義経兄弟と大和に逃亡 3月 兄頼朝 伊豆に配流	
1165	永万元	7	鞍馬山入寺(遮那王)	
1167	仁安2	9		2月 清盛太政大臣(50歳)
1170	嘉応2	12		5月 藤原秀衡 鎮守府将軍
1174	承安4	16	鞍馬脱出 奥州下向(熱田元服義経記)(鏡の宿平治物語)	
1177	治承元	19		6月 鹿ヶ谷の陰謀
1178	2	20		11月 徳子 安徳天皇を産む
1179	3	21		11月 清盛 後白河法皇幽閉
1180	4	22	8月 頼朝 挙兵 9月 義経 兄の挙兵を知る 10月 頼朝鎌倉入り 富士川の戦い	4月 以仁王の令旨 5月 以仁王、頼政宇治で敗死 6月 清盛 福原に遷都 9月 義仲 木曾に挙兵
			黄瀬川の対面(10月21日)	12月 重衡 南都焼き討ち
1181	養和元	23	3月 兄義円 重衡に墨俣川で敗死 7月 鶴岡八幡宮の上棟式で馬引きを行う 11月 平氏を迎撃の為出陣するも中止	閏2月 清盛逝去(64歳) 6月 義仲横田河原で城長茂破る
				この年大飢饉 養和の大飢饉
1182	寿永元	24		
1183	2	25	閏10月 義経 義仲追討の為鎌倉を発つ	5月 義仲俱利伽羅峠で平氏破る 7月 平氏一門西走 義仲入洛 8月 後鳥羽天皇踐祚 10月 10月宣旨 閏10月 義仲 水島の戦いで敗戦
			11月 義経軍 近江に達する	11月 義仲 法住寺殿焼き討ち 12月 義仲追討の宣旨

西暦	和暦	年齢	義経事項	関連事項
1184	元暦元	26	<p>1月 義経・範頼 瀬田で義仲破る(31歳) 義経 平氏追討の為一の谷に進発</p> <p>2月 三草山の戦い 一の谷で平氏大敗 京都凱旋後 治安維持にあたる</p> <p>8月 頼朝に無断で検非違使に任官 範頼 平氏追討の為鎌倉を発つ</p> <p>9月 義経 従五位の下となる 河越重頼女と結婚</p> <p>10月 義経 昇殿を許される</p>	<p>1月 義仲 征夷大將軍 平氏一の谷の城郭を構築</p> <p>4月 義高入間川にて堀藤次の 郎党に殺される</p> <p>10月 頼朝 鎌倉に公文所、門注所 を開く</p>
1185	文治元	27	<p>2月 範頼軍九州に到着 義経 京都を発ち阿波に到着 屋島の戦いで平氏破る</p> <p>3月 義経 平氏追討の為周防を船出 壇ノ浦で平氏一門滅亡</p> <p>4月 無断任官の東国武士 24人処罰 義経 頼朝に勘当される</p> <p>5月 義経 京都出京 腰越状を出す</p> <p>8月 義経 伊予の守に任官</p> <p>9月 義経 鎌倉使者梶原景時と面会</p> <p>10月 土佐坊昌俊 義経を襲撃 義経 頼朝追討の宣旨を得る</p> <p>11月 義経出京 大物浦より船出 河越重頼の領地没収</p>	<p>5月 平時忠 能登配流が決定</p> <p>6月 平宗盛 斬られる(39歳)</p> <p>11月 北条時政 入京 守護・地頭の勅許</p>
1186	2	28	<p>3月 静 鎌倉に出発</p> <p>4月 静 鶴岡社頭の舞い</p> <p>5月 源行家 殺される</p> <p>6月 頼朝 義経追討の宣旨を得る</p> <p>閏7月 叡山潜伏 発覚 静男子出産</p> <p>9月 静 母と共に鎌倉出発 郎党堀景光捕わる、佐藤忠信殺される</p> <p>12月 比企朝宗 奈良に義経を搜索</p>	<p>2月 一条能保 京都守護</p> <p>3月 九条兼実 摂政</p>
1187	3	29	<p>2月 義経 奥州下向の風聞</p> <p>3月 奈良僧 聖弘鎌倉に召喚</p> <p>9月 義経追討の宣旨 義経 奥州藤原氏へ行く</p> <p>10月 秀衡逝去</p>	<p>6月 大江広元 上洛</p> <p>9月 鬼界島に義経与党の捜査</p>
1188	4	30	<p>2月 義経追討の宣旨 泰衡に伝える</p> <p>10月 義経追討の宣旨</p>	<p>10月 叡山僧 俊章の逮捕を命ず</p>
1189	5	31	<p>2月 頼朝 泰衡追討を求む</p> <p>閏4月 泰衡 衣川館に義経襲撃 義経自害</p> <p>6月 義経の首級 鎌倉に届く</p>	<p>2月 平時忠 能登で逝去(60歳)</p> <p>6月 頼朝 泰衡の追討を請う</p> <p>9月 泰衡 殺される(35歳) 奥州藤原氏滅亡</p>

多摩丘陵に残る 義経史話

その1 弁慶の二枚橋と鍋ころがし

その2 笹子姫と法雲寺

その3 古沢の九郎明神社

その4 長尾の里の妙楽寺 乙若(阿野全成)

その5 亀井六郎重清の館跡、(義経四天王の一人)

その6 多摩区の寿福寺に残る鑑と大般若経

その7 稲毛三郎重成の屋敷跡

源 義経の 兄弟たち

義平 (悪源太)： 義朝の長男。永治元(1141)生れ、母は橋本の遊女 or 三浦義明の娘。久寿 2(1155)叔父義賢(義仲の父)を武蔵国大蔵館で殺害、悪源太と呼ばれるようになる。平治の乱に上洛、奮戦したが敗れた。父の名で北国勢を集める為北陸道に向かったが、越前国足羽で父の死を知り、再び上洛。清盛暗殺の機会を狙ったが果たせず、捕えられて斬首。

朝長： 康治 2(1143)生れ、母は波多野義通の妹。平治の乱で敗れ(16 歳)敗走中に比叡山の山法師に阻まれ傷を負うが美濃国青墓宿(大垣市)まで逃れる。義朝はここで義平と別れるが、朝長はとてもしるしまでは逃亡無理として父に頼んで殺害してもらう。

頼朝： 久安 3(1147)生まれ、母は熱田大宮司、藤原季範の女。平治元(1159)の平治の乱で父義朝が敗れた為翌年平氏に捕えられ、伊豆に流罪となる。その後義経と対立、後白河上皇が一時義経に味方した為、その追捕を名目に上皇に迫って守護、地頭の設置を実現させた。

義門： 母は熱田神宮の大宮司藤原季範の娘 由良御前。早世されたと言われている。

希義： 母は頼朝と同じ由良御前。頼朝が伊豆に配流となった永暦元(1160)3 月 11 日と同じ日に土佐に配流となる。頼朝の挙兵を受けて、平家より希義追討の命令が出され土佐で殺される。

範頼： 義朝の 6 男、母は遠江国池田宿の遊女。通称蒲の冠者。義朝の死後九条兼実のけいし家司：藤原範季の養子となり扶持を受ける。妻は安達盛長の女。頼朝の挙兵に参加し東奔西走する。頼朝の推挙で三河守となる。建久 4(1193)曾我兄弟仇討事件で、頼朝暗殺が誤り伝えられると鎌倉留守居役だった範頼の不用意な発言が問題となり、殺される。

全成(今若)： 義朝の死後、京都醍醐寺に預けられ僧侶となる。頼朝の挙兵を知り合流、源氏の菩提寺医光寺の院主となる。妻は政子の妹 阿波の局。阿波の局は、実朝の乳母となり養育をする。後、駿河国阿野に住む(現：沼津市周辺) 建仁 3 (1203) 謀反の疑いで頼家に殺される享年 50 歳。

義円(乙若)： 義朝の死後、後白河法皇の皇子：八条宮円恵法親王に仕える。頼朝が挙兵すると関東に下るが、翌年 3 月叔父行家と共に尾張墨俣川で平家軍を迎撃するが平重衡に敗れ敗死。

義経(牛若)： 平治元(1159)生まれ、母は常盤御前。平治の乱後鞍馬寺に流され、後奥州藤原秀衡の扶持を受ける。頼朝旗揚げ後は代官として兄範頼と共に東国武士を率いて上洛、源義仲や平氏一門を追討した。地域住人に対する徹底した軍事動員と、当時の合戦の作法を度外視した戦法によって連戦連勝した。頼朝の許可なく任官したため頼朝と不和となり最後は藤原秀衡の子泰衡に殺害された。

源義経の 四天王

1. 伊勢三郎義盛 (?~1186?)

伊勢国 or 上野国出身(伊勢神宮神官家の出とも) 罪を犯して鈴鹿の山賊となる。義経郎党の一番最初。壇ノ浦では平宗盛を生け捕る。腰越では一条能保と悶着を起こす。玉葉では鈴鹿山麓で自害とあるが義経記では平泉まで同行し衣川合戦で皆と共に討ち死にした事になっている。

2. 亀井六郎重清 (?~1189)

紀州熊野の社家出身。鈴木党(紀州熊野三党の一つ、東北に勢力を持っていた) 常に義経の身辺にいた。壇ノ浦後には義経の使者として異心無き旨を伝える為鎌倉に赴いた。最後の衣川合戦では紀州より助っ人に来た兄鈴木三郎重家と共に主を守って奮戦し、力尽きて兄と共に切腹した。

3. 駿河次郎清重 (?~1189)

駿河国出身、元は竹之下次郎の名で獵師を生業としていたが、義経が黄瀬川宿で兄頼朝と対面の頃より義経の家人となる。義経記では捕えた刺客・土佐坊昌俊を六条河原で処刑したとされる。源平盛衰記では平宗盛の末子(8 歳)を六条河原で斬る役を担った。

4. 片岡八郎為春 (?~1189)

両総平氏(平忠常の子孫) 常陸国鹿島郡片岡を苗字とする。兄常春と共に九郎義経に従った。義経記では力自慢同士ゆえか弁慶と絡むことが多く漫才チックなしゃべくりを展開する。最後の衣川では弁慶と共に最後まで生き残り、主を守って奮戦した。しかし負傷しこれ以上戦えないと知ると潔く切腹した。